

議事録

件名	第17回（平成31年度第1回）外傷等動向調査委員会
日時	平成31年4月11日（木）18時30分～19時30分
場所	市役所1301会議室
出席者	<p>出席委員：足達 寿 委員 久留米大学 医学部教授（委員長） 岡村 明 委員 久留米医師会 理事（副委員長） 山下 寿 委員 聖マリア病院 救急救命センター長 轟 仁 委員 久留米広域消防本部 救急防災課長 内藤 美智子 委員 久留米市保健所長 秦 美樹 委員 久留米市協働推進部長</p> <p>事務局：江原主幹、岡主査（安全安心推進課） 渡辺保健所次長、西村補佐、小野（総務医薬課）</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. はじめに <ol style="list-style-type: none"> (1) 副委員長の選任について 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国内外のセーフコミュニティの現況について (2) 平成31年度の主なスケジュールについて 4. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 今後のデータ収集方針（案）について (2) 次回のセーフコミュニティ実態調査の基本方針（案）について (3) 高齢者の自宅浴槽での溺死溺水に関する対応（案）について (4) SCの取り組みや対策委員会間の連携について 5. その他 6. 閉会
〈議事概要〉	
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から開会宣言 ・委員自己紹介 ・傍聴確認 （傍聴希望者なし） 2. はじめに <ol style="list-style-type: none"> (1) 副委員長の選任について <ul style="list-style-type: none"> ・副委員長の選出 （委員の互選により、副委員長に岡村委員が選出） 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 国内外のセーフコミュニティの現況について <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って報告 <p>質疑応答なし</p>

<p>事務局</p> <p>委員①</p> <p>委員②</p> <p>委員③</p> <p>事務局</p> <p>委員④</p> <p>委員①</p> <p>委員④</p> <p>委員①</p> <p>委員④</p> <p>委員②</p> <p>委員③</p>	<p>(2) 平成31年度の主なスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が資料に沿って報告 <p>質疑応答なし</p> <p>4. 協議事項</p> <p>(1) 今後のデータ収集方針(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が資料に沿って報告 <p>(質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none"> 虐待に力を入れていくということだが、現在、子どもと高齢者の虐待防止が別れているのを、DVも含めてまとめてはどうか。 データ分析にあたっては、久留米市全体ではなく、校区単位でのデータを出してほしい。その方がより細かく考えることができ、実際の介入もしやすいと思う。 今後の対策委員会の枠組みはどうなるのか。 必要に応じて、取り組みがしやすいように変更することも考えられます。 虐待に関しては取得が可能なデータはどのようなものが考えられるか。 院内で虐待が疑われたときは、必要に応じて児童相談所やソーシャルワーカーなどにつないでいるが、市全体のデータとなると集めるのが難しいと思う。結果として虐待にあがったものしか取得できないと思う。 けがや病気はその原因をまず予防しようというのがセーフコミュニティの取り組みの趣旨であり、虐待は、元の予防のデータをどうとるのが難しいと思う。 虐待については、市民に対する啓発も十分ではないと思う。そのあたりから取り組む必要があると思う。 加害者側の要因として、ストレスなどが自分から外に向かった結果が虐待やDVであり、自分に向かったのが自殺につながると考えたときに、何か予防できる方法があるのか。 精神保健として、保健所で行っている自殺対策の取り組みは、予防につながっているのではないかと思う。 消防では、救急の搬送依頼があったときに、現場で虐待の恐れがあると感じた場合は、関係機関に連絡している。消防で知り得た情報は、なるべく関係機関に情報提供して、対応が後手にならないための連携に取り組んでいる。
---	--

<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対策委員会の組み換えなどは行うのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 33年度に整理するために、今から考えていくこととしています。他の自治体で、久留米市でやっていない取り組みの例としては、「労働の安全」「余暇の安全」「スポーツの安全」「外国人の安全」「障害者の安全」などがあります。
<p>(2) 次回のセーフコミュニティ実態調査の基本方針（案）について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局が資料に沿って報告 	
<p>(質疑応答)</p>	
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 17歳以下の年齢区分には、何歳以上という決まりがあるか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にありません。前回の実態調査は、親に子どものことについて尋ねる形で実施しています。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回から1,000人減らしても、回収率は変わらないという判断か。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意識調査の対象者数からのサンプル数を算出する際の割合を参考にしています。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ くるモニというは、具体的にどういうものか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市がモニターを依頼している方、約200人に対して質問をお願いする形でやっています。
<p>(3) 高齢者の自宅浴槽での溺死溺水に関する対応（案）について</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局が資料に沿って報告 	
<p>(質疑応答)</p>	
<p>委員①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ チラシはどのような場所で配付しているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 31年1月から配布を始めており、配布している施設は、校区コミュニティセンターや老人福祉センター、地域包括支援センター、介護福祉サービス事業者協議会などに配布しています。
<p>委員②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 溺水での救急搬送対応の際に、浴槽の形状を確認していただくことはできるか。
<p>委員③</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある程度の協力はできると思うが、救急通報を受ける職員がお風呂からの引き上げや人工呼吸の実施を指導してもできていないことが多く、救急隊は救命処置を優先しないといけないことが多いため、実際にどこまでできるかはわからない。

委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・溺死溺水に関して、浴槽内で発生した場合の浴槽の形状に関する全国のデータなどはないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらで調べた範囲ではありませんでした。なお、最新のデータでは、福岡県での溺死溺水の発生件数は全国で5番目に多いという内容でした。また、久留米市は県内でも件数は多いほうだと考えられます。 <p>高齢者学級で、これらの件に関してアンケートをとった結果、お風呂に関して危ないという認識がない方が多い傾向にありました。また、浴槽の形態はボックス型（ストレート浴槽）が多いという意見でした。</p>
委員②	<ul style="list-style-type: none"> ・溺死溺水で年間なくなっている件数はどのくらいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・久留米市での発生件数は、平成28年が36名、平成27年が33名、平成26年が36名です。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の対策委員会の中のケアマネジャーの意見では、一人暮らしの方などは以外と注意されている方が多い印象ということでした。このことから、一人暮らしの方が多いいいことではないと考えていますが、データを収集した結果ではないので、その検証をどのようにするかが今後の課題と認識しています。 <p>今後も啓発は継続していきたいと考えていますが、そのやり方の一つとして、ヒートショックが原因になっていることが多いということで、かかりつけ医にチラシを配布して患者にお話をさせていただくことを考えています。また、住宅リフォーム会社や建築会社、久留米ガス会社などを通じて注意喚起を行うなども考えています。</p>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・溺死された方を法医解剖する場合もあるのか。
委員①	<ul style="list-style-type: none"> ・溺死でなくなられた方を解剖した例はない。
委員③	<ul style="list-style-type: none"> ・救急現場で明らかに死亡されている場合は、警察に引き継ぐ。警察が事件性の有無で解剖するかどうかを決めると思うが、通常解剖はしないと思う。 <p>市が、全戸配布の広報誌でこの件について掲載したことはないのか。そうすることで家族の目に触れることも有効だと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はしておりません。チラシの折込みなどもしておりません。
委員①	<p>(4) SCの取り組みや対策委員会間の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料に沿って報告
	<p>(質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、全国的虐待が問題になっているので、虐待を中心に他の委員会とも連携しながら市として力をいれてやっていっていただきたい。

委員②	<p>4. その他</p> <p>(質疑応答)</p> <ul style="list-style-type: none">・当初報告1であった「ハッドマンマトリックス編」の考え方を各対策委員会にも参考に周知するのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・対策委員会の中には出していませんが、事務局にはこれを行うことを話しています。他の対策事務局もまじえてこのマトリックスの使い方などを勉強していきたいと考えています。その後に対策委員会には提示していきたいと考えています。
	<p>5. 閉会</p>